臨時祭○十一月賀茂　舞人歸路、服黑貂皮衣、

〔江家次第五二月〕春日祭途中次第

小一條大將○藤原濟時　爲使、脫黑貂裘給兼時、後有悔氣、上代以此裘爲重物之故也、兼時得其心、後日令人賣之、

昔蕃客參入之時、重明親王乘鴨毛車、著黑貂裘八重見物、此間蕃客纔以件裘一領持來爲重物、見八重大慙云々、

〔多武峯少將物語〕中宮○村上后藤原安子　よりくるみの色の御ひたゝれ、くちなしそめのうちき一かさね、ふるきの皮のおほんぞ、あをにびのさしぬき、あわせのはかまたてまつれたまふ、御うた、

夏なれど山は寒しといふなればこのかはぎぬぞ風はふせがん

〔空穗物語藏開中〕六尺ばかりのふるきのかはぎぬ、あやのうら付て、わたいれたる御つゝみにつませ給、

〔源氏物語六末摘花〕きたまへるものどもをさへいひたつるも、ものいひさがなきやうなれど、昔物語にも、人の御さうぞくをこそ先はいひためれ、○中略　うはぎには、ふるきのかはぎぬ、いと清らにかうばしきをきたまへり、

〔下學集上氣形〕栗鼠（リツス）

〔本朝食鑑十一鼠〕栗鼠訓理須

集解、山中處處所在有之、狀大於鼠而略類鼬、色黃黑尾粗大而長、性恐寒喜暖、穴居于古樹、日溫腹滿、則踞立于石上樹梢、自被尾毛而匿身、寬舒如得意時、每好食栗柿、葡萄、胡桃、椎實、榧子之類、身輕如飛、齒勁如鐵、故畜栗鼠之子者、隨其長大入鐵籠之中、其餘必能囓破脫去、曾聞甲信越飛奥野之諸山亦有之、予○平野必大　使野之二荒山中、時時見之、然形小漸如鼬大、卽是貂未聞有如獺之貂也、或謂二荒山

栗鼠